

第14回図書館総合展フォーラム開催報告

「図書館からスタジアムへ スタジアムから図書館へ

ー地域活性化に貢献するJリーグと公共図書館の連携ー

- 1 主催：図書館海援隊サッカー部
- 2 共催：ビジネス支援図書館推進協議会
- 3 後援：公益社団法人日本プロサッカーリーグ、株式会社川崎フロンターレ
- 4 目的

「百年構想」を掲げ、それぞれのホームタウンにおいて地域社会と一体となったクラブづくりに取り組んでいるJリーグクラブチーム。読書活動の啓発・推進とともに、地域社会や住民の課題解決を支援して地域社会の活性化に取り組む公共図書館。近年、盛んになってきている両者の連携によるさまざまな効果をJリーグ20周年の節目に振り返り、さらに連携を広げ深めていくことで地域文化の醸成へ如何に貢献できるのか、その可能性を探る。

- 5 日時：平成24年11月21日（水）午後1時から午後5時迄
- 6 場所：パシフィコ横浜展示会場内
- 7 日程

時 間	予 定	内 容
第I部『Jリーグと公共図書館の連携から生まれるもの』		
13:00～13:03	開会行事	主催者挨拶
13:03～13:30	基調報告	Jリーグと図書館の連携が地域にもたらすもの ～ ビジネス支援と地域活性化の関係性～ 小林 隆志（鳥取県立図書館）
13:30～15:00	パネル ディスカッション	コーディネーター 神代 浩 元文部科学省社会教育課長 文部科学省初等中等教育局国際教育課長 パネリスト 中西 哲生 元Jリーガー、スポーツジャーナリスト 日本サッカー協会特任理事 傍士 銃太 財団法人日本経済研究所地域未来研究センター長 Jリーグ理事 天野 春果 川崎フロンターレ プロモーション部部长 天野奈緒也 愛媛県立図書館
15:00～15:30	休 憩	
15:30～17:00	事例報告	1 吹田市立図書館 千里図書館北千里分室 主査 谷口 恵子

		2	さいたま市立東浦和図書館 さいたま市立大宮図書館	井原 利安 堀杉 等史
		3	上山市立図書館	主査 中沢 孝志
		4	宇佐市民図書館	司書 石井 芳江

- 8 会場参加者 固定席約 130 名、立見スペースからご覧いただいた方多数あり。
(オープンスペースのため正確な数字は不明、固定席に座らず、立ち見のままでパネルディスカッションを聞く方が多数あり。また 14:30 から他の会場が一斉に休憩に入り、展示会場を訪れた方が多数あったのも奏功した。)

9 まとめ

今回のフォーラムは、主催が図書館海援隊サッカー部で、共催者にビジネス支援図書館推進協議会が加わることで開催が実現した。

これは、図書館海援隊サッカー部の部員の多くが、ビジネスライブラリアン講習の受講性であり、尚且つ、裾野の広いスポーツ産業を活性化することは、地域の経済の活性化に直結する（ビジネス支援という考え方にフィットする）ことなどに由来するものである。

フォーラムは、前半のパネルディスカッション、後半の事例発表とともに、全国で同様の活動を展開する図書館員に大きな夢と希望を抱かせるものとなった。

基調報告発表資料

資料は別途 PDF で公開

前半のパネルディスカッションのパネリストの発言から

中西 哲生氏：図書館とサッカーの連携は、すごくありがたい。サッカー、スポーツという世界で生きているが、それ以外の部分にどう絡んでいくかということを考えている。サッカー選手になった当時図書館の方々と一緒に事業ができるというようなことは考えてもみなかった。昔、自分は本を読まなかったが、今は本を無には考えられない。チームのアーカイブを各図書館がやっていただけることも非常にありがたい。こういう連携は、一言では語れないほど有意義。サッカー選手は人間性を応援してもらえないとチームが負けた時応援してもらえなくなる。

傍士 洗太氏：図書館と J クラブは一体になったかと思う。図書館もいろんな方が出入りするという姿は、いろんな方が出入りする地域のスポーツクラブと共通のものだと思う。スポーツクラブも図書館の数に匹敵するように増やしたい。一つの目標になった。

天野 春香氏：フロンターレと図書館の連携は、サポーターの声から始まった。本好きの選手が多いのなら本を絡めた事業をやったらどうかという提案があった。おすすめ本の紹介とか学校への読み聞かせに出かけるとか……。本を活用した街づくりを考える会を立ち上げ

た。年に 7 回必ず選手が読み聞かせに出かけている。図書館の位置づけは J リーグの位置づけと一緒に。どちらも地域の人たちが使う場所だ。図書館と J リーグの共同事業が行えるのは、特性が似ているからではないかと思う。

天野奈緒也氏：愛媛の場合は、他地域の図書館と交換展示を行うことから始まった。草津の職員と話をしているときに温泉ダービーを思いついた。チームと話をしている中で、選手名鑑とかマッチデイプログラムなどかなりの出版物があることに気が付いた。これは、資料として図書館が保存しなければならないと思うようになり、愛媛プロスポーツアーカイブズを館内につくった。

後半の事例発表について

1. 吹田市立図書館のガンバ大阪との連携について

中高生が選手にインタビューに出かけ、その内容（ガンバで選手や本の魅力）を HP 等で発信する事業『読書でガンバ』についての報告。照れながらも、誠実に答えようとする選手の姿が見えて微笑ましい事業であった。

2. さいたま市立東浦和図書館と浦和レッズ、
さいたま市立大宮図書館と大宮アルジージャの連携について

ライバル関係にある浦和レッズと大宮アルジージャのサポーター図書館員が漫才形式でコミカルに活動内容を紹介

3. 上山市立図書館とモンテディオ山形の連携について

資料は別途 PDF で公開

4. 宇佐市民図書館（他）と大分トリニータの連携について

資料は別途 PDF で公開

（文責：鳥取県立図書館 小林隆志）